

# Dyna Wave

2019年10月号

1  
1st 2019

■ 事業構造転換をさらに進める1年  
「CASE」を軸に徹底解説



# Dyna Wave

2019年7月号

7  
7th 2019

■ 2019年度 業績決算  
日本製紙 新経営体制が軌道  
第24回読者対談特号 大日本製出版論文1!



# Dyna Wave

2019年2月号

2  
Feb. 2019

■ コレクター紙「パルプ」の未来  
「Mitsui Paper Yarns」が、世界の紙工業界をリード  
2019年2月号の注目記事!



# Dyna Wave

2019年3月号

3  
Mar. 2019

■ 日本製紙 インドの紙工事業に参入  
「CASE」を軸に徹底解説



# Dyna Wave

2019年8月号

8  
Aug. 2019

■ 日本製紙 富士工場でセルロースナノファイバー  
海外製紙の成長と生産設備の増設  
産地視察会報告と産地生産紹介



# Dyna Wave

2019年9月号

9  
Sep. 2019

■ 第3回読者対談特号 大日本製出版論文1!  
2月号別冊に続編! 日本製紙の未来



## DynaWave

DynaWave



成長市場へ大参戦 2017年の目標は「生産性向上」  
オーストラリアンペーパー社の環境と事業

4

Apr.2017



G・R・O

## DynaWave

DynaWave



入社式特集  
平成29年度社員募集

5

May.2017



G・R・O

## DynaWave

DynaWave



石巻工場 全ロースタノフアイバー製造設備が稼働  
あらかめて一人一人の働き方を見直そう!

6

Jun.2017



G・R・O

## DynaWave

DynaWave



共同APUメーカーが本拠地  
「製品開発部2017」に出演

10

Oct.2017



G・R・O

## DynaWave

DynaWave



日本製紙 工中工場で食品・化粧品向け  
全ロースタノフアイバーの製造設備が稼働  
丸沼製紙スローモーのワンオーダーシステムが稼働中!

11

Nov.2017



G・R・O

## DynaWave

DynaWave



「第43回社会人野球日本選手権大会」  
出場券でかよろこが活躍中!  
Nippon Paper Vist Hwa My社の紹介

12

Dec.2017



G・R・O

## Contents

### FEATURE

02 収益力強化へ大詰め  
2017年の目標は「生産性極大化」  
オーストラリアンペーパー社の現在と未来

04 世界の紙の市場動向  
09 4. 生産性向上の取り組み

06 紙質向上への取り組み  
08 5. 環境にやさしい紙の取り組み

08 6. 社会貢献活動  
09 7. CSR活動の取り組み

10 08 紙質向上への取り組み  
09 9. 環境にやさしい紙の取り組み

11 08 紙質向上への取り組み  
09 10. 社会貢献活動

### GROUP NEWS

12 08 紙質向上への取り組み  
09 11. 社会貢献活動

13 08 紙質向上への取り組み  
09 12. 社会貢献活動

14 08 紙質向上への取り組み  
09 13. 社会貢献活動

15 08 紙質向上への取り組み  
09 14. 社会貢献活動

16 08 紙質向上への取り組み  
09 15. 社会貢献活動

17 08 紙質向上への取り組み  
09 16. 社会貢献活動

18 08 紙質向上への取り組み  
09 17. 社会貢献活動

19 08 紙質向上への取り組み  
09 18. 社会貢献活動

20 08 紙質向上への取り組み  
09 19. 社会貢献活動

21 08 紙質向上への取り組み  
09 20. 社会貢献活動

22 08 紙質向上への取り組み  
09 21. 社会貢献活動

23 08 紙質向上への取り組み  
09 22. 社会貢献活動

24 08 紙質向上への取り組み  
09 23. 社会貢献活動

### 4月1日現在、日本紙協会の紙質動向



08 紙質向上への取り組み

オーストラリアンペーパー社

# 収益力強化へ大詰め 2017年の目標は「生産性極大化」 オーストラリアンペーパー社の現在と未来



オーストラリアンペーパー社、オーストラリアンペーパー社、オーストラリアンペーパー社

オーストラリアンペーパー社(以下、AP社)は、2008年に日本製紙グループの一員となりました。高品質、高い人件費、オーストラリア国内の紙需要の減少など、厳しい事業環境の中、一貫して収益力強化に取り組んでいます。

今回は、AP社が取り組んでいる取り組み「iSIPプロジェクト」を紹介します。この取り組みは、AP社の成長戦略の重要な要素として、各工場、特にオーストラリアのAP社の成長戦略への促進を図っています。

### AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力

AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力しています。AP社の成長戦略は、2008年に開始されました。

2008	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2009	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2010	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2011	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2012	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2013	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2014	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2015	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2016	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2017	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	

AP社は、2008年に開始された「iSIPプロジェクト」を通じて、生産性向上に取り組んでいます。この取り組みは、AP社の成長戦略の重要な要素として、各工場、特にオーストラリアのAP社の成長戦略への促進を図っています。

AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力

### AP社の成長戦略

AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力しています。AP社の成長戦略は、2008年に開始されました。

2008	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2009	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2010	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2011	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2012	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2013	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2014	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2015	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2016	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2017	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	

AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力

### AP社の成長戦略

AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力しています。AP社の成長戦略は、2008年に開始されました。

2008	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2009	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2010	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2011	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2012	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2013	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2014	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2015	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2016	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	
2017	AP社の成長戦略は「生産性向上」に注力	



# 日本製紙グループ「食品開発展2017」に 出展 (10月4~6日) おいしさは、木で育つ。

当社グループは東京ビッグサイトで開催される「食品開発展2017」に出展します。  
「食品開発展2017」は、食品の最大テーマである「健康、おいしさ、安全・品質」に関するアジア最大規模の専門展覧会です。テーマに、求めている「おいしさ」、「おいしくする」、「おいしさを守る」商品や技術、サービスを展示・紹介します。

おいしさは、木で育つ。  
おいしさは、木で育つ。  
おいしさは、木で育つ。



## キッズントレーラーが話題！「おいしさ」を体験できます。

さまざまな形で食品の「おいしさ」を体験するキッズグループの食品や技術、サービスを一堂に集めます。  
ブースにキッズントレーラーを展示し、セシピア(CEPIA)、セルロースナノファイバーによる「しっとりとしたおいしさ」の食品が話題のセルロースナノファイバー、自家製酵母や天然素材を使用した厚揚げコロッケ(コロッケ)、自家製酵母を使用した焼きそば(パスタ)から、不要成分を除去した「セルロース」などの健康・美容効果が高い100%植物由来の繊維(セルロース)の食品や技術が紹介されます。また、会場内でプレゼンテーションも行います。



セルロースナノファイバーを使用した食品の展示 (左) キッズントレーラーの展示 (右)

## ● 当社グループブースの構成は

### 「おいしい」

水産物加工(天婦羅(セルロース))、  
【特定原材料25品目】を配合した食品

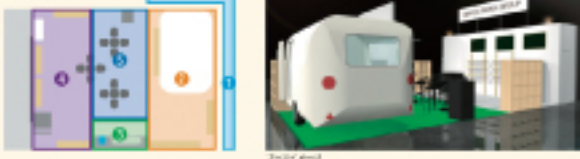
### 「おいしくする」

セルロースナノファイバー(CEPIA)による「しっとりとしたおいしさ」の食品  
自家製酵母を使用した食品

### 「おいしさを守る」

天然酵母(自家製酵母)を使用した食品  
自家製酵母を使用した食品  
自家製酵母を使用した食品  
自家製酵母を使用した食品

## ● 日本製紙グループブース



- **ブース案内** キッズントレーラー-食品展示フロアで、展示内容が紹介できます
- **展示・試食**  
「おいしい」 自家製酵母(酵母)、セルロース  
「おいしくする」 自家製酵母(酵母)、セルロース(CEPIA)、セシピア(CEPIA)  
「おいしくする」 自家製酵母(酵母)、セルロース(CEPIA)、セシピア(CEPIA)  
● **展示**「おいしさを守る」 自家製酵母(酵母)、セルロース(CEPIA)、セシピア(CEPIA)  
● **展示**「おいしさを守る」 自家製酵母(酵母)、セルロース(CEPIA)、セシピア(CEPIA)

## 新しい製品紹介動画をご紹介

展示する本製品の動画をより詳しく紹介したいお客様をYouTubeで公開しています。ご自身の他にぜひご覧ください。

天然「バルブ」から抽出した  
「セルロース」(CEPIA)



自家製酵母・水産物加工(天婦羅)を使用した  
「バルブ」(バルブ) (自家製)



不要成分を除去した  
「セルロース」  
「セルロース」



「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品

「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品

「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品

## 「食品開発展2017」概要

日 期 10月4日～6日 10:00～17:00  
場 所 東京ビッグサイト(有明コロシアム) 西4ホール2817m<sup>2</sup>  
ア ク シ ョ ン 食品開発展2017「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
食品開発展2017「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
食品開発展2017「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品  
食品開発展2017「おいしくする」の自家製酵母(自家製酵母)を使用した食品



本展覧会参加登録QRコード

## 関係者には 素敵なグッズを プレゼント!

当社ブースへお集まりいただき、製品サンプルやパンフレットを入手し、お名前を登録していただきます。



当社グループブースの会場は 西4ホール2817m<sup>2</sup>。

展示会場のご案内をお待ちしています。

# CSRについて考えてみよう!

日本経済  
COP26

## 第7回 循環型社会の実現に向けて

今回は、第4回「持続可能な社会の構築」を実現するには次の原則に示した「よい良い循環」に関する「循環型社会の構築に向けて」について考えてみましょう。

### ● 「循環型社会」とは何ですか

自然の循環と人間の経済活動におけるモノの循環が調和している社会のことです

森がとり、やがて枯死して空に還ったり、生物の死体は土に還り他の生物の食料となるように、自然界では絶えず自然の行方へと回っています。しかし、自然界が本来持っているように、大量生産・大量消費・大量廃棄を促進した消費の拡大は、自然の循環にも大きな負荷を与えています。廃棄物処理の増大を招きかねないため、経済活動においてモノを循環させる(リユースやリサイクルなど)、資源消費の削減を策し、廃棄物を減らすなど、自然に対する負荷が小さくなる必要があります。



自然の循環と経済活動におけるモノの循環の調和  
資源の採取、生産、消費の循環と資源消費、生産、消費の循環  
資源消費、生産、消費の循環と資源消費、生産、消費の循環

### ● 日本では「循環型社会の構築」に向け、どのような取り組みが進められているのでしょうか

法律で国を主とした取り組みが進められています

日本では2000年に「循環型社会形成推進基本法」が制定されましたが、その趣旨に沿って環境省を中心とした関係省庁が連携して取り組む取組が進められてきました。そのために、産業界の分野に力を入れた「リサイクルコース・リユース・リサイクル」が実施され、2015年には資源物の回収率が重さが2000キロと同等の7割程度に、次第に増加しています。しかし、循環型社会の本格的な実現は、天然資源の採掘の抑制と自然への負荷の低減です。今後はモノが廃棄される段階での取り組みだけでなく、その前のモノの生産・流通・消費段階での資源の循環を促進するための取り組みを積極的に進める必要があります。



### ● 当社グループは「循環型社会の構築」に対し、どのような取り組みを進めているのでしょうか

資源の循環利用について、具体的な目標と行動を進めています

当社グループは、環境省から提示された2050年に向けた環境行動計画「グリーンアクションプログラム」を策定しています。2019年度から2023年度までの「グリーンアクションプログラム2023」では、資源の循環利用として「資源利用の再高率化」とし、ゼロを目標として掲げます。「資源物の再資源化率を90%以上とする」との目標を掲げています。

URL: <http://www.nissansystem.com/greenaction>

環境省が公表する2050年資源循環に関する目標と行動計画  
URL: <http://www.mwh.go.jp/2050greenaction>

環境省が公表する2050年資源循環に関する目標と行動計画

URL: <http://www.mwh.go.jp/2050greenaction>

